

「シルボンヌ全国大会」

2023 IN 福岡」開催

「ありがとう」を励みに輝き続ける」

全国から約370人が参加



会場の後方では、15センター、3連合会が商品を販売

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会（以下、全シ協）は令和5年11月29日、「シルボンヌ全国大会2023 IN 福岡」をJ R九州ホールで開催した。

現在、全国の1300を超えるシルバー人材センターでは、24万人以上の女性会員（シルボンヌ）が活躍している。本大会には、「1人でも多くの女性に一層輝いてほしい」という願いが込められており、今回は4回目となる。

企画・運営は、全シ協理事で奈

良県SC協議会の宇田秀子会長、

熊本県・八代市SCの田中陽子理事長をはじめ7人の委員で構成される運営委員会と、福岡県内のシルバー人材センター女性役員13人から成るプロジェクトチームが担った。

会場には、全国のシルバー人材センターから、女性会員や役員など約370人が集結。大会の様子は、Instagramでライブ配信もされた。

開会前に会場に入ると、ホール後方では、全国から集まった15センター・3連合会が、独自事業と

「シルボンヌ」とは？

「シルボンヌ」は「シルバー」とフランス語の「ボンヌ」（お手伝い・親切・優れたの意味）を合わせた造語で、シルバー人材センターのイメージアップと女性会員の入会促進に向けて、公益財団法人いきいき埼玉（埼玉県SC連合）が平成30年に定めた女性会員の愛称。「シルボンヌ」を埼玉県内だけでなく、全国の会員に普及・浸透させて、シルバー人材センターのイメージ変革につなげたいとの思いで、全国大会への使用を承諾した。

して製作・販売している伝統工芸品や染め物、加工食品、布小物、洋服などを販売していた。どの商品も女性会員が手掛けたもので、商品が並ぶブース周辺は、買い物を楽しむ参加者で祭りのようににぎわいを見せていた。

13時、前半の司会進行を務める福岡県・春日市SCの会員・岩崎菜穂子さんが、「シルボンヌ」について説明した。その後、大会運営



大会運営委員会の宇田秀子委員長が開会のあいさつを行った

委員会の宇田委員長が登壇。「シルボヌ全国大会は、シルバー人材センターの女性会員・シルボヌが、各地で生き生きと活動される様子をお伝えする場として、4年前から開催しています。この大会を通して、そのようなシルボヌさんがお1人でも増えますことを願います」と開会のあいさつを述べた。

続く来賓祝辞では、大曲昭恵福岡県副知事が本大会開催に尽力した関係者に感謝を述べた。また、「高齢者の仕事やボランティア活動への意欲を支援し、100歳まで生涯現役で社会に参加し続けられる社会をつくりたいと考えています。女性の力を発揮できる仕組み



祝辞を述べる大曲昭恵福岡県副知事（写真右）と小野寺徳子福岡労働局長（写真左）



みとして、子育てマイスター制度を設けるなど、高齢女性が活躍できる地域、職場を増やしているの

で、ぜひ活躍してほしいと思います」と女性会員への期待を語った。

同じく来賓の小野寺徳子福岡労働局長は、「厚生労働省は、未就業会員の就業促進や会員拡充に向けた取り組みを進めています。本大会が実りある成果を収められ、本日はご出席の皆さまが、お元気で活躍されることをお祈り申し上げます」と祝辞を述べた。

シルボヌの活動と各センターの商品を紹介

続く「シルボヌ活動紹介」では、福岡県・太宰府市SCと鹿児島県・鹿児島市SC、山口県・光市SC、熊本県・八代市SCの女性会員が登壇した。最初に紹介された太宰府市SC会員の大穂聰子さんは、現在、太宰府天満宮の名物・梅ヶ枝餅体験教室のインストラクターとして就業し活躍中。「幅広い年齢層の方々と交流できるこの仕事は楽しく、『おいしかった』『楽しかった』と言ってもらえると達成感を覚える」と話した。

鹿児島市SCの松崎絹子さんは、未就業対策を担当。未就業会員への就業案内がないときも、電話などで声掛けを続けてコミュニケーションを図ったところ会話がすすみ、やりがいを感じているという。

光市SCの友森泰子さんは、保育園での保育補助のほか、学校の長期休暇中は、小学校の保育児童



4センターのシルボヌ活動事例報告



運営委員会委員とプロジェクトチームのメンバー

クラブの手伝いをしている。仕事を通して交流が広がり、水墨画やトランポリンを楽しむなど充実した毎日を過ごしていると笑顔で語った。

八代市SCの田中陽子さんは33年間担ってきた公民館の受け付けの仕事を、センター入会後も引き続き担当している。「来月には後期高齢者の仲間入りをしますが、生涯現役を目指します」と元気に話した。

次に、各センターの女性会員が独自事業として製作・販売している、さまざまな商品が紹介された。

後半は脳トレ体操とファッションショー

後半は、福岡県・北九州市SCの会員・佐海登志子さんに司会をバトンタッチし、運営委員会委員とプロジェクトチームのメンバー紹介からスタートした。

その後、福岡県・小郡大刀洗広域SCの会員が考案した脳トレ体



「サザエさん体操」をする小郡大刀洗広域SCの会員

操「サザエさん体操」に参加者全員で行った。この体操は、アニメ「サザエさん」のオープニング曲に合わせて、グー・チョキ・パー・拍手を繰り返すシンブルなもののだが、速いテンポについていくのに苦労する参加者も見られた。

次に、福岡県内シルバー人材センターの女性会員によるファッションショー「シルボンヌ☆コレクション」がスタートした。第一部は、「シルボンヌの就業中ファッション

ョン」と題して、12人の女性会員が就業中の服装を披露した。

まず、草刈り・剪定チーム、事務所やホテルなどを掃除する清掃チーム、独自事業の店舗で調理販売をするショップチームの女性会員が登場した。さらに、「いろいろなお仕事のチーム」として、ラーメン店スタッフ、世界遺産三池港ガイド、着付け教室スタッフや着付け教室の先生……とさまざまな仕事をする女性会員が笑顔でステージ上を闊歩^{かつぱ}。



シルボンヌ☆コレクションでモデルを務めた会員全員がステージ上へ



就業中ファッションを披露する草刈り・剪定チーム

その生き生きとした姿に、就業を楽しみ、生きがいを感じていることが伝わってきた。

続く「手作り作品ファッション」と題したコレクションでは、福岡県内3センターで作品作りを行うグループが手掛けた衣服や小物が紹介された。

最初のグループは、不要になった着物で洋服や小物を手作りしている古賀市SCの「芽ぶきの会」。女性会員が大島紬^{おおしまとう}の着物をリメイクしたワンピースや、へこ帯で作ったチュニックなどをまもって登場し、ステージを彩った。

次に紹介されたのは、甘木地域の伝統工芸である木綿の藍染め「甘木絞り」の作品作りを行う朝

エンディングでは、福岡市SCのイメージソング「きつと。もつと。これから」を参加者全員で合唱。手話ダンスも披露された。



倉市SCの甘木絞りグループ。ステージ上では、さまざまな技法で染めた布で作った洋服や小物のほか、ハート柄に染めた現代的な浴衣も披露された。

築紫野市SCの手作りグループ「夢」からは、さをり織のロングベストやバッグ、留め袖や裏服で作ったブラウスやパンツなどが紹介された。

介された。

どの作品もデザイン性はもちろん、着心地や機能性も考慮されている。中にはA5サイズの書類等が入る大きめポケット付きのコートもあり、発想力の豊かさに驚かされた。

第2部のテーマは「シルボンヌおしゃれ着ファッション」。生活雑貨や衣服を扱う「無印良品」で働く福岡県・大牟田市SCの女性会員2人が同店の衣服を着用して登場し、司会者から仕事内容や仕事着のコーディネートのポイントなどが紹介された。

続いて、第1部で就業中ファッションを披露した女性会員が、無印良品の衣服を着用して再登場した。草刈り・剪定チームは「リンクコーデ」をテーマにした若々しいファッションで笑顔を振りまいた。清掃チームの2人は、同じ素材のコートとニットを用いた「双子コーデ」、ショップチームはおそろいのウオーマーを着用した「姉

TOPICS

～シルボンヌのマークとキャッチフレーズ～

◆女性活躍促進に向けた「シンボルマーク」

「全国のシルバー人材センターの女性会員は、仕事に、ボランティアやサークル活動にと元気に活躍しています。会員でない方も、会員になって、自分色の花を咲かせていただきたいという思いを込めて、女性と花が同化したシンボルマークを作成しました。全国のシルバー人材センターでは、このシンボルマークを掲げ、女性が生涯活躍できる社会を目指します。」



◆女性活躍促進に向けた「キャッチフレーズ」

「ありがとうは魔法の言葉」

「全国のシルバー人材センターでは、女性活躍促進に向けたキャッチフレーズとして『ありがとうは魔法の言葉』を掲げて、会員、利用者をはじめ、すべての皆さんから『ありがとう』と言ってもらえるシルバー人材センターを目指します。」

★シルボンヌ全国大会の様子は全シ協ホームページで配信中！

<https://zsjc.or.jp/>

妹コーデ」で登場。いろいろなお仕事のチームは、「ワントーンコーデ」などのトレンドファッションを披露した。

おしゃれなファッションと女性

会員のチャージングなボーリングに、場内からは終始、歓声と拍手が送られた。プロジェクトチームのメンバーも、うちわを振って声援を送り、ショーを盛り上げた。



感想を述べる全シ協の金子順一会長

全てのプログラムが終了すると、本大会の締めくくりに、全シ協の金子順一会長が登壇。「今大会は大変楽しい内容で、シルバーの仕事内容や魅力がしっかりと伝わり、とても良い演出だった」と感想を述べた。また、福岡県SC連合会が制作したCM『今日の私は「恵子さん」篇』に触れ、「シルバー人材センターでの仕事は楽しく生きがいにつながることを、今後も外に発信したい」と方針を語った。

その後、福岡県・新宮町SCの小林栄子副理事長が「私たちシルボンヌは、『ありがとう』の言葉を励みに、これからもずっとずっと輝き続けていく」と宣言。エンディングでは、福岡県・福岡市SC

のイメージソング

「きつと もつと

これから」(半崎

美子作詞・作曲)を

参加者全員で合唱

した。この歌はコ

ロナ禍で会員活動

が制限された時、

シニア層を応援す

る歌を作りたいと

いう声を発端に誕

生した。合唱中、

福岡市SCの会員

は、ダンスをしな

がら歌詞を手話で伝える「手話タ

ンス」を披露。こうして16時、女

性会員が主役の本大会は終了した。

(井本旬子)



新宮町SCの小林栄子副理事長はシルボンヌ宣言を発表



「シルボンヌ全国大会2023 | N福岡運営委員会」のメンバー。写真左から、運営委員会委員長・奈良県SC協議会の宇田秀子会長(全シ協理事)、八代市SCの田中陽子理事長、山武市SCの津久井知世常務理事兼事務局長、大木町SCの猿渡知子常務理事兼事務局長、鹿児島市SCの中村敬子事務局次長兼総務課長、福岡市SCの大塚加代子事務局次長、福岡県SC連合会の野崎真由美総務・経理課長

シルボンヌ宣言 2023

わたしたちシルバー人材センターの女性会員、通称「シルボンヌ」は、“自主・自立、共働・共助”の理念のもと、仕事やボランティア、趣味を活かした事業など、様々な活動に取り組んでいます。活動を通して体と心を動かすことで、イキイキとメリハリのある毎日です。

自分のために、誰かのために、地域のために、わたしたち「シルボンヌ」は、同じ志を持つたくさんの仲間とともに、これまでの人生で積み重ねてきた、経験と知恵と工夫をフル活用しながら、「ありがとう」の言葉を励みに、これからもずっとずっと輝き続けていくことをここに宣言します。

2023年11月29日

シルボンヌ全国大会2023 | N福岡
運営委員会